



【地域の特性と児童生徒の実態】

<地域の特性>

- 風光明媚で知られた清見潟が広がり、江戸時代には興津宿として東海道五十三次の17番目の宿場町として発展した。
- 歴史ある興津の地には、先人たちが積み上げてきた地域の力が今でも、しっかりと残っており、地域に対する住民の愛着心・自負心は大変高い土地柄である。
- 興津地区には、西園寺公望が晩年を過ごした別荘を復元した興津坐魚荘等、重要な建築物や歴史を残している地区である。

<児童生徒の実態>

- 素直で、元気であり、学年が上がるにつれて、進んで挨拶ができる。節度ある言動ができ、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- 行事に仲間と協力して取り組むことができ、仲間を大切にする思いやりの心が育っている。
- 地域との連携で、社会性や郷土愛が育まれている。
- ◆ 学習の基礎基本の定着、家庭学習の習慣化を図る必要がある。
- ◆ 自ら判断して主体的に取り組む姿勢を伸ばしていきたい。

興津地区の特性を活用し

児童生徒の良さを伸ばし課題を解決する

小中共通目標の実現を目指して

視点Ⅰ 目標の共有

小中一貫教育 教育目標 「心豊かで 高め合う子」（小中共通）

【目指す子どもの姿】

自分を取り巻くすべての人・もの・ことに感謝し、仲間と協力し、より良いものを創造している姿

視点2 連続性・系統性

【柱1】

- 指導観を共有し、一人一人を大切にした教育の推進
- ・各教科等の学習内容の実態把握
 - ・小中の系統性を意識した教科等の年間指導計画
 - ・総合的な学習の時間（おきつ学）の実施
 - ・特別支援教育の充実
 - ・保健教育の推進 等

【柱2】

- 子どもが生活しやすく授業に集中できる環境づくり
～ユニバーサルデザインの視点を生かして～
- ・基本的な生活習慣（服装・言動・時間）の徹底
 - ・校舎内が整理整頓され授業に集中できる環境
 - ・考えを伝え合い、学びを深める授業構想
 - ・仲間を思いやり、安心して生活できる環境

視点3 協働・交流

教育の条件整備

（予算の有効活用・小中連携した事務室運営）

視点4 地域連携

【柱3】

- 教職員・児童生徒が協働した交流活動の推進
- ・交流授業の実施 ・音楽交流会の実施
 - ・児童会・生徒会による挨拶運動 ・幼保園との交流
 - ・小・中学校による特別支援学級の交流
 - ・教職員による興津地区フィールドワークの実施
 - ・地域運動会における交流 ・小中合同防災訓練 等

【柱4】

- 郷土を愛し、貢献する心を育てる地域連携
- ・地域人材の積極的活用（講師派遣、学校応援団等）
 - ・「興津型防災学習」での地域との交流活動の実施
 - ・地域防災訓練やボランティア活動への積極的参加
 - ・地域行事（朝鮮通信使・西園寺公望動説劇）への参加
 - ・健全育成大会への児童・生徒の参加 等

保護者・地域との連携・協働 「よこのつながり」

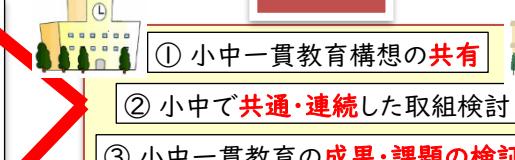
生活充実部会

- 落ち着いた生活習慣
 - ・「生活のルール」の共有・見直し
 - ・メディアコントロール
- 子ども理解
 - ・深い子ども理解
 - ・語る会等での情報共有

学力向上部会

- 学びに向かう姿勢
 - ・「考えながら聞く」指導
 - ・基礎基本の定着
- 小中交流の推進
 - ・図書「おきつ100選」の推進
 - ・作品の交換掲示（図工・美術）

おきつ学園小中一貫教育目標の実現に向けて



活動推進部会

- 認め合える活動
 - ・学級・学年等での認め合い活動
- 委員会活動の推進
 - ・児童会・生徒会活動の連携
 - ・児童会・生徒会での合同クラス開設
 - ・専門委員会の交流

地域連携部会

- 「おきつ学」の充実
 - ・9年間のカリキュラムの策定（「歴史・文化・防災」学習）
- 地域との交流
 - ・地域人材の活用、行事への参加

各支援部会
との連携・協働
※こども園との
円滑な接続

※ 令和6年度に
CSへ移行



興津学区CN
との連携・協働

【改称】おきつ学園コミュニティ委員会

※ 興津地区PTA連絡協議会と兼ねる